

第7回医療・介護関係者の研修「多職種連携事例検討会」報告



令和2年10月8日(木)14:00～15:30 オンライン 参加者：66名

テーマ：～地域で生きるために～「環境？生活？その方の大切なものに気づく」

パネラー：おひさま訪問看護ステーション 稗田 洋子氏
 神戸白鷺病院 医療福祉相談室 沖田 修司氏（事例提供）
 神出あんしんすこやかセンター 守口 博康氏
 あいの森 ケアマネジャー 藪本眞理子氏



《内容》 パネルディスカッションによる事例検討

事例1：精神発達遅滞があり、母親からの虐待疑いで入院となったケース

包括)地域の方の力を借りてのアセスメント必要。8050問題多くなっている。医療との連携も積極的にしていこうと思っているので、相談して欲しい。

訪看)家族をシステムとして見ていく。看護師としては、身体面を中心に疾患を持った人を見ていき、変化を関係者に情報提供。見守り、連携し、チームで関わるのが大切。

ケアマネ)一人を分離、サービスの導入で終わりではない。皆の意向を確認し信頼できる主治医との連携が大切。病院も地域の支援者と一緒に動いてほしい。神戸引きこもり支援室紹介。

PSW)病院は家族へのアプローチが行いにくい。家族療法による家族の再構築が必要なケース。一人は救えたが家族は不幸になり根本の解決ができず、本日の意見が大変参考になった。

事例2：妄想障害はあるが、飼い犬を生きがいに劣悪な環境の自宅に帰りたい患者の退院支援。

包括)包括は、多職種の意見を集約、アセスメントし必要な所に繋ぐことが役割。地域のアセスメントを今後もしっかりとしていきたい。

訪看)家族システムの中でその人の力が最大限に活かせるように協力したい。自立支援・介護保険・医療保険のいずれを選択するか、訪看ステーションの選択も個別に合わせる。

ケアマネ)本人の意向を大切に寄り添いやれるところまでやる。病院のバックアップが大切。生活過程、成育歴、家族の立ち位置もアセスメント。主治医を中心に看護師、薬剤師の連携。

PSW)プライドが高く信頼を得にくかったが、飼い犬や家族に関わることで心を開いてくれた。支援者の自己満足に終わらない様、自己決定を尊重し本人の納得のいく生活を支援する。

《アンケートより》 アンケート回収数：50（回収率89%）

本日の研修会は役立つものでしたか？			医療介護の多職種連携は、進んでいますか？		
大変役に立つ	24人	48%	できている	8人	16%
役に立つ	26人	52%	努力している	40人	80%
どちらともいえない	0人	0%	できていない	2人	4%
合計	50人	100%	合計	50人	100%

本日の研修会は貴方にとって役立つものでしたか？（自由記載）

- ・職種によって捉え方や注目すべき点の違いが見え、考え方の幅が広がる研修だった。
- ・自身のケースを振り返ることができた。在宅を諦めないチーム作りを再考する機会になる。
- ・研修に参加する度に地域の方の力を感じる。支援に対する考え方が変わる気がする。
- ・普段の業務では触れることのできない精神的な分野やその生活支援を学ぶことができた。
- ・二事例共に状況が良くわかり多職種で検討することの大切さが再確認できた。
- ・家族への関り、チーム連携の大切さをあらためて考えることができた。
- ・それぞれの専門職の視点についてや支援内容について勉強できた。

